エーゲ海スケッチ紀行(3) ペロポネソス周辺の環境

専門会員 小 泉

実 Minoru Koizumi

1. コリントス運河

私達がコリントス運河にさしかかったのは、夜中の12時だった。

運河の規模は図に示すとおりで、その両端にある橋は、船が通過する度に海面下に沈む構造となっている。

橋のたもとでは、沢山の人々が私達にむかって、手を振っていた。

地峡はせまく、ステラマリン号はタグボートにひかれながら、かつ、ゆっくりと進んでいった。

運河の両の壁面には、高圧ナトリウムランプが等間隔

図1 コリントス運河の規模

図2 コリントス地峡の周辺

図3 高圧ナトリウムランプのもと、タグボートにひかれて航行する

にならんで、水面に映えているのが印象的だった。

2. デルフィ神殿

運河を抜けた翌朝、美しいイテア港の山波をスケッチしながら、デッキで朝食をとる。

停泊時間は(6:00~11:30)、片道、約1時間のバスに乗り、全4.5時間でデルフィを見学して来た。

アテネからここまでバスで来たら大変だろうと思う。

オリーブ林を抜けたあと、日光のいろは坂を思わせるほどのカーブを繰り返しながら、急坂を登ってゆくと、イテアの海岸線は湖畔のように見え隠れしていた。

こんな所に人が住んでいるのだろうか、と思っていると、やがて、賑やかな街並みがあらわれ、少し離れた所に待望の神域があった。

図4 イテア港からデルフィへ

図5 アポロン神殿跡 (デルフィ)

図7 ブルツィ島 (ナフプリオン)

図6 デルフィ神殿の配置

私は、スケッチの時間をつくるために、全てを視るのはあきらめて、アポロン神殿あたりに残って列柱の前に立つと、山波を背景にして描いていた。

3. ナフプリオンの街

ナフプリオンが美しい街であることは、すでに聞いていたことだが、入港すると、ランドマークのブルツィ島がすぐに目にとり、早速、船の中から一枚描いた。

接岸したそこから、目と鼻の先にパラミディの城塞が迫っていた。

下船すると、1000段におよぶ急な石段を登りながら、時々ふりかえっては又描く。

ブルツィ島が浮ぶ様子を4つ切にも描いてみた。

この街の広場や、商店街路には、都市財のありかたについて教えてくれるものがあつた。

しきつめられた石畳、それでいて巨樹や、ブーゲンビリアのような緑が大切にされているのだ。

そこには、美観をそこなうような、電線、電柱、看板などを見いだすことはできない。

巨樹には、単純だが、しっかりした防水形のスポットライトが取付けられてあつたから、おそらく、夜の景観はすばらしいものとなるだろう。

(次回は南アルバニアの環境)

図8 パラミディ要塞より (ナフプリオン)

図9 商店街路 (ナフプリオン)

図10 ナフプリオン要部